

## 社会教育委員の会議第2回会議 議事要旨

1. 日 時 令和7年10月8日(水)午後2時から4時

2. 会 場 市役所 議会棟3階 庁議室

3. 出席者

- ・社会教育委員 川崎 文(副議長)、古谷 美樹、小松 洋一、堀米 安子、吉元 梓、湯浅 茂樹、高橋 房子、清水 宏眞、吉田 昭
- ・事務局 福島、甲斐、山田

4. 議事

「芸術文化振興検討部会」にて計3回の会議を経て作成された「守谷市における文化ホール整備に関する建議書(案)」について、各委員より意見が述べられ、建議書(案)の課題、問題点が挙げられた。修正点、重要論点について意見が集約され、建議書の修正は部会に一任することで一致した。

### ●建議書の課題・問題点

- ・建設費は 50 億円(過去の試算)、現在の相場では 100 億円超の可能性あり。古河市の 150 億円計画を参考資料として併記するか。
- ・財政負担の重さと年間維持費の課題について(1 人あたり約 10 万円の建設費、年間維持費約 2,000 円)。
- ・既存施設との住み分けが不明確で、市民の日常利用感覚に合っていない部分がある。
- ・市単独運営は不可で、市民参加や民間事業者の協力が必須である。
- ・収益構造が不透明で、市の赤字補填が 2/3 程度見込まれるが収入増加策が必要である。

### ●方向性・提案

- ・民間事業者との PFI 方式による設計・建設・運営の委託を提案する。その際には事例が入っていた方が分かりやすい。
- ・市民の声を反映するためパブリックコメントを実施。
- ・国・県の交付金など利用可能な支援は最大限活用する。
- ・駅近など利便性の高い立地を想定し、上質で規模のある施設を目指す。
- ・自主企画や収益性を高め、市税からの持ち出しを抑制する。

### ●重要論点・意見集約

- ・施設は「品」と「上質さ」を基本コンセプトとし、子ども(児童・生徒)や若者も対象にする。
- ・既存の児童施設や公民館との機能分担を明確化し、ホールはより専門的・高級な文化

拠点とする。

- ・収益の見込みと赤字許容範囲の試算が不足している。これについては具体的な計画の段階で、専門家を入れて試算することが不可欠であることを明記する。
- ・近隣施設(もりりん中央等)の稼働率や席数を踏まえた需要予測の重要性を明記する。
- ・横文字や専門用語が多い点は市民向けに分かりやすく修正すること。
- ・担当課は企画課が中心となり、担当者・関係部署との連携を強化することを明記する。

#### ●その他の指摘・提案

- ・県の支援や県施設としての整備可能性も提案されたが、現状不可能。
- ・ホール建設により文化芸術の可能性を広げ、若年層の参加促進を期待したい。
- ・お金や場所など現実的な制約が多いが、コンサル等を活用し専門的知見で検討を深める。
- ・本議案はあくまで方向性の提示であり、具体的な建設計画ではないことを明記する。
- ・古河市の施設例を追加することは、具体的な金額の目安になるのか。

#### 【結論】

本建議書は、市長が前向きに検討できるよう「守谷らしさ」を活かした質の高い文化ホールの方向性を示すものである。市単独での建設運営は難しく、民間との協働運営や市民参加を柱とし、収益性・持続可能性を重視した施設づくりを目指す。財政課題や収益構造の明確化については、具体的な計画段階では専門家による詳細な検討・検証が必要であることを明記する。既存施設との機能分担、子ども・若者の利用促進などを踏まえ、今後の具体的検討につなげることを目的としている。

以上